

「とっとり子育て親育ちプログラム」



ファシリテータ通信

令和4年3月31日

発行：鳥取県教育委員会事務局

社会教育課

地域学校協働活動推進担当

TEL/0857-26-7521

FAX/0857-26-8175



<https://www.pref.tottori.lg.jp/katei/>

私の名前は「ねっこりん」。
みなさんと共に、子育て・家庭教育を支援していきます！！

コロナ禍での家族や社会に対する意識の変化、ICTの急速的な普及など、私たちの生活を取り巻く環境が激変して2年が過ぎました。益々、子どもたちの居場所である家庭、園・学校、地域等で様々な工夫をしながら、子ども達の育ちを支えていく環境づくりと保護者への伴走支援も求められています。

本年度も「切れ目ない、きめ細やかな子育て・家庭教育支援」を合言葉に子育て・家庭教育支援を推進してきました。保護者が安心して子育てや家庭教育を行うための支援の中核となり、地域に根ざした子育て・家庭教育支援を行う方々のフォローアップ研修会（全4回）と「とっとり子育て親育ちプログラム」ファシリテータフォローアップ研修会（全2回）開催、またファシリテータの方々にICTに慣れていただく勉強会としてICTカフェ（全8回）、派遣事業等を実施しました。

御多用中、講座・研修会等に参加していただいた皆様、ありがとうございました。

本年度の子育て・家庭教育支援についてまとめてみましたので、今後の活動に生かしてください。

講座・研修等のまとめ

◇ 令和3年度講座・研修等について

鳥取県子育て・家庭教育支援員等フォローアップ研修会

各市町村において子育て・家庭教育支援の充実に寄与している者の資質向上や、文科省が推奨している家庭と地域・学校をつなぐ家庭教育支援チームの形成促進を図り、届ける家庭教育支援体制の構築を推進する。

《第1回》市町村の家庭教育支援充実に向けて 7月2日(金)

- 県行政説明(社会教育課・子育て王国)
- 講義「家庭教育支援の充実に向けた保護者の意識に関する実態把握調査結果の概要と家庭教育支援チームの在り方」(文科省 家庭教育支援室室長補佐)
- 演習「家庭教育支援事業の計画と実践方法を考える」(文科省家庭教育支援室係長)

《第2回》チーム員・支援者としてのスキルアップ 9月1日(水)

- 講義「幼児期における子育て・家庭教育支援～遊びきる子ども～」小中学校課
- 講義「鳥取県の子どもの姿からインターネットとのより良い付き合い方を考える」社会教育課

《第3回》10月8日(金)～10月29日(金) ※Youtubeによる動画配信

- 「ヤングケアラー支援について」N.K.Cナースングコアコーポレーション 神戸貴子氏

《第4回》子育て・家庭教育支援の充実に向けて 11月29日(月)

- 講義「家庭教育支援の多様な在り方」滋賀県教育委員会事務局 生涯学習課
- 事例発表 南部町家庭教育支援チーム

「とっとり子育て親育ちプログラム」 ファシリテータフォローアップ研修会

「とっとり子育て親育ちプログラム」ファシリテータ(進行役)として、地域における家庭教育支援の中核となる人材の資質向上をする

ファシリテータフォローアップ研修会 (第1回)10月19日(火)

- 【講義①】鳥取県の子育て・家庭教育支援について
- 【演習①】ファシリテータとしての活動①
- 【講義②】ICTを活用した家庭教育支援について
- 【演習②】ファシリテータとしての活動②

ファシリテータフォローアップ研修会 (第2回)12月16日(木)

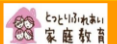
- 【講義③】コロナ禍におけるワークショップを通した家庭教育支援
独立行政法人教職員支援機構
つくば中央研修センター長 清國 祐二氏
- 【演習②】ファシリテータとしての活動③
- 【説明】ファシリテータ派遣事業について

ファシリテータICTカフェ

12月1日～3月16日の隔週水曜日

Zoom、スプレッドシートの使い方等、
Web会議システムを使用したファシリテートについて

各市町村の子育て・家庭教育支援取組



子育て・家庭教育支援員フォローアップ研修会

《第1回》市町村の家庭教育支援充実に向けて<7月2日>

- 行政説明 「県の家庭教育支援について」 社会教育課
 - ・鳥取県のめざす支援体制～未然予防としての家庭教育支援・家庭教育支援チームの活用～
 - 「子育て王国 鳥取県の取組」 子育て応援課
 - ・子育て王国ととりの子育て支援について(家庭教育支援チーム形成・活動のため、活用可能な取組)
- 講演 「家庭教育支援の充実に向けた保護者の意識に関する実態把握調査結果の概要と家庭教育支援チームの在り方」
文部科学省総合教育政策局地域学習推進課 家庭教育支援室長補佐 壬生篤志氏
- 演習 「家庭教育支援事業の計画と実践方法を考える」
文部科学省総合教育政策局地域学習推進課 家庭教育支援室係長 安岡沙東子氏

☆演習 「家庭教育支援事業の計画と実践方法を考える」

各グループで「課題」のために「対象」に対し、「方策」をする。という形でまとめ、発表しました。

<まとめ> (協議の整理用)

課題 のために 取組の対象 に対し、
 方策 する。

～グループ発表のまとめより一部抜粋～

課題	取組の対象	方策	期待できる効果
子育て家族の孤立化を防ぐ	核家族の親・子ども	横のつながりを作るためのチラシ・イベントで似た家族を集め地域とのつながりをつくる	<ul style="list-style-type: none"> 子育てに対する不安の解消 子どもの気持ちの安定 ひきこもりの防止 地域との縦のつながり 親の心の安定が子どもの安定につながる 信頼関係をつくる
支援が届きにくい家庭への支援	課題を抱えている家庭	切れ目ない支援を目指し親(家庭)とつながりを構築する	<ul style="list-style-type: none"> 信頼関係をつくり、子育ての不安を取り除く 相談のしやすい顔の見える関係をつくることで、生涯を通じた支援が入りやすい 親の心の安定が子どもの安定につながる
児童虐待の防止	保護者	子育てに関する研修や学びの場の提供	<ul style="list-style-type: none"> 地域とのつながりやかかわりで子どもの安心につながる。 保護者同士のつながり(情報交換・共有) 地域の人に相談できる しつけマニュアルづくり 情報過多の中、目安になる保護者の安心につながる

<参加者より>

- ・それぞれの市町村がいかに支援を届けようと工夫され、取り組んでいるかということを知ることができた。人とのつながり、地域とのつながり、行政とのつながり、つながり作りが基盤だと改めて感じた。
- ・様々な立場の方と話できたことがとても良かった。保護者と継続的につながっていて、見守り続けていく環境を作りたい。
- ・親同士で学び続けることの大切さ、その場所・機会の提供の大切さを再確認した。

話し合い中で「つながり」という言葉が多く使われていました。改めて、子どもは人の輪の中で育まれることの大切さを感じました。



《 第2回 》チーム員・支援員としてのスキルアップ<9月1日>

○講義

「幼児期における子育て・家庭教育支援～遊びきるこども～」県小中学校課 係長 前田恵子 氏
 ・子どもの居場所に一つである園で大切にしている姿「遊びきるこども」について、子育て・家庭教育支援をしている方々に知っていただく機会としました。

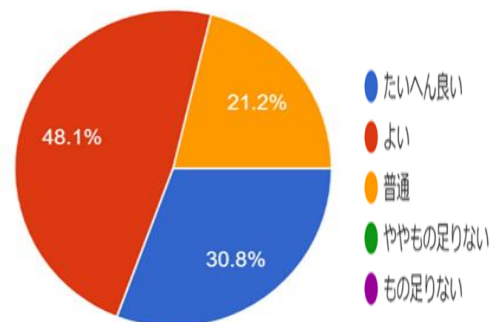
○講義

「鳥取県の子どもの姿からインターネットとのより良い付き合い方を考える」
 県社会教育課 社会教育主事 戸板正哉 氏
 ・実際にタブレットやスマホを使いながら、インターネットとのより良い付き合い方を考えました。



Google フォームでアンケートを返していただきました。
 御協力ありがとうございました。

本日の講座・研修はいかがでしたか





<参加者より>

- ・保育所等、子どもたちを育てている機関の取り組みを、いろいろな立場の人が知っておくことはとても意義深いと思います。
- ・幼児期に遊びを通して、様々な経験をすることで、就学後の学びや育ちの基礎が培われていくのだと思った。コロナ禍で体験的な活動が制限されてしまっていますが、子どもたちが主体的に活動できる機会があればと思います。
- ・今回初めてICTを活用した学習の体験をさせてもらって、やっと利便性を理解することができた。実際に保護者に体験してもらうことが早期理解へとつながると感じた。インターネットとのつきあい方を学ぶ場が、親と子が同じ空間で学べばさらに家庭での会話が共通認識のなかでできるので良いと思いました。
- ・「インターネット利用のルール作り」のポイントを参考に、保護者に話していきたいと思います。基本は、日頃からネットとの接し方を考えられる子どもを育てることですね。

《 第3回 》 チーム員・支援員としてのスキルアップ<オンデマンド開催10月8日~10月29日>

○講義「ヤングケアラーの支援について」(Youtubeによる動画配信)

N.K.C ナーシングコアコーポレーション 神戸貴子 氏

<参加者より>

ヤングケアラーとは...

家族にケアを要する人がいる場合に、**大人が担うようなケアや責任**を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行い、自らの生活や学業に影響を受けている**18歳未満の子ども**をいいます。

ヤングケアラー相談窓口 —聞かせてください、心の声を—

【東部】	【中部】	【西部】
福祉相談センター (鳥取市江津318-1)	倉吉児童相談所 (倉吉市宮川町2丁目36)	米子児童相談所 (米子市榎野町4丁目50)
☎0857-29-5460	☎0858-22-4152	☎0859-33-2020

- ・実際の当事者の声やその支援をされている方の映像も鳥取の方で身近なこととして捉えることができた。ヤングケアラーのことは全く知らなかったが、今回の研修で知り、そのような人もいる現状と支援の仕方を知ることができた。
- ・話を聞き、見守り、つながり続けることが、本人が相談しなくなった時にいっしょに何ができるのか考えていけるのだと思った。
- ・子どもの発達に寄り添って、気になるご家庭の小学校から中学校の引継ぎが必要だと感じた。
- ・子どもの問題だけでなく、親、要介護者を含めた家族単位で考えなければならない問題であり、さらに長期的な見守りとケアが必要。地域や行政が連携し、ヤングケアラーの存在に気づき、当事者の生活ケアや自身の人生に向き合えるためのサポート体制づくりを検討する必要性を感じた。

《 第4回 》 子育て・家庭教育支援の充実に向けて<11月29日>

○講演「家庭教育支援の多様な在り方」

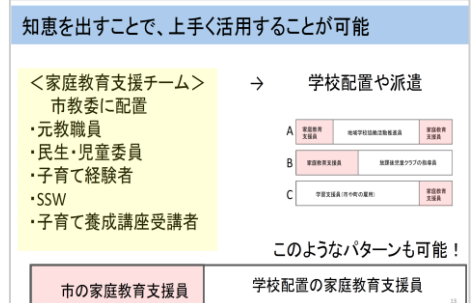
滋賀県教育委員会生涯学習課 主査 宮崎良一氏
主任主事 川口朋也氏

- ・滋賀県の訪問型家庭教育支援を中心にお話を聞きました。子どもをよく知っている支援員が訪問し保護者に子どもの頑張っている様子を伝えながら関係づくりをしていること、家庭教育支援チームの構成の工夫などを家庭教育支援の多様なあり方について学びました。

【家庭教育に関する滋賀県生涯学習課のホームページ リンク】

※滋賀県教育委員会ホームページ

滋賀県学習情報提供システム「におねっと」



滋賀県講演資料より抜粋

滋賀県の取組が掲載されています。参考となるものがたくさんあります。

○事例発表 南部町家庭教育支援チーム(スマイルサポートなんぶ)

南部町教育委員会 人権・社会教育課
家庭教育推進員 中谷博視 氏

- ・家庭教育支援について調査したうえで、就学前の子どものいる家庭への全戸訪問(ベルト型)の方法、課題や成果等を発表していただきました。

<参加者より>

- ・滋賀県の学校配置型の支援員配置方法、支援員の立ち位置や身近な関係づくりの取組が勉強になった。チーム員は少人数で、きめ細やかな活動ができていた。
- ・モデル市町の取組を聴き、支援対象である保護者のエンパワメントの大切さを改めて認識した
- ・南部町の取組は地域に合ったやり方で素晴らしい。どうすれば地元にあった取組ができるか考えていきたい。
- ・家庭教育にかかわる調査を行い、課題の整理をされていて、実践につなげておられるところが参考になった。

早速、職場に持ち帰って職員配置や今後の取組に生かす動きにつながりつつあるという情報提供が入ってきています。



○ワークショップ「子育て・家庭教育支援で、何をどのように届けるのか」～グループ発表のまとめより一部抜粋～

人材育成、人材発掘、つながり作り	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント、活動での参加者から人材を発掘する。 ・子どもの親族、祖母・祖父等関係者に手伝ってもらおう。活動に参加してもらっている人に徐々に声かけしていく。 ・家庭教育支援につながる源は、地域のつながり。普段の雑談の中から少しずつ人材を探していくしかない。
コロナ禍で困難を抱えている家族の対応・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、SNS、ZOOM等媒体を活用した情報提供 ・地域のことが分かっている専門家の配置 ・福祉等との連携強化 ・各学校に家庭教育支援チーム配置 ・全戸訪問など、相手が受け入れやすい形でまずつながりを作る。

ファシリテータフォローアップ研修会

《 第1回 》 《 10月19日 》

- 【講義①】 鳥取県の子育て・家庭教育支援について
- 【演習①】 ファシリテータとしての活動①
- 【講義②】 ICTを活用した家庭教育支援について
- 【演習②】 ファシリテータとしての活動②



参加

尊重

守秘

<参加者より>

- ・演習をしてみて少し自信ができました。研修を進めるにはまだまだかかりそうですが、公民館での子育て事業に取り入れて見たいです。
- ・自己紹介の「短く、親しみやすく、あたたかく」を大切にします。
- ・ICTを活用した家庭教育支援を考えると、ファシリテータがパソコンにふれながら研修するという方法は良かったです。みんなが使いこなせるようになったらいいですね。
- ・実際にタブレットを操作して、少し自信ができました。

《 第2回 》 《 12月16日 》

- 【講義③】 「コロナ禍におけるワークショップを通じた家庭教育支援」
独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター 清國 祐二 氏
 - ・「コロナ禍におけるワークショップの価値づけからはじまり、「メディアとの付き合い方」というワークをしながら、ワークシートの使い方やzoomの機能のひとつであるチャットの活用など幅広くファシリテータのスキルアップにつながる講義でした。
- 【演習③】 ファシリテータとしての活動③
 - ・ICTを活用した「とっとり子育て親育ちプログラム」を参加者の立場で体験していただきました。対面でないからこそ、グランドルールの参加・守秘・尊重は大切であること、ファシリテータの指示が明確であることを確認しました。

<参加者より>

- ・顔が見えておしゃべりをする事は、家庭教育支援のキーワードになると思った。おしゃべりできることは安心感につながります。
- ・リモートでもワークショップで人と繋がれることを学んだ。一方、人との距離感がつかみにくい。
- ・公平、平等、公正を意識すること、目指すところを定めながら進めること、支援する側として保護者の持っている力を引き出すこと、若い方の目線に合わせることなどの難しさを感じている。



コロナ禍だからこそその本年度の研修会でした。
「まずは参加者一人一人が清國先生とオンラインでつながろう！」という目標を掲げ取り組んだICT研修。積極的に参加いただく姿に感動しました。新しいことをまなぶことは単純に楽しいですね。ファシリテータの皆さんによるオンライン「とっとり子育て親育ちプログラム」も実現できそうです。

ファシリテータICTカフェ（12月1日～3月16日の隔週水曜日 全8回）

子育て親育ちプログラム

ICT Café

GRAND DECEMBER 1 OPEN

つながれる…つなげる…その先へ

Café ID: 987 8409 5723

Café passcode: 873953

日付	内容
①12.01	インターネットの便利さと注意事項（ネットリテラシー）
②12.15	ZOOMの使い方（ゲストになってみよう！）
③01.05	スプレッドシートの使い方（表を作ったり計算できたりします！）
④01.19	フォームの使い方（アンケート集計に便利です！）
⑤02.02	Jam board の使い方（意見を出し合ったり、まとめたりするのに便利です！）
⑥02.16	ZOOMの使い方（ホストになってみよう！）
⑦03.02	ZOOMで子育て親育ちにチャレンジ（1）
⑧03.16	ZOOMで子育て親育ちにチャレンジ（2）



募集

企業は家庭の応援団 とっとり家庭教育推進協力企業

令和3年3月15日現在
884社と
協定を結んでいます。

学校への参加を推奨するなどの子育てしやすい職場環境づくりや子どもたちの様々な活動の支援などに取り組むことで、家庭教育を応援していただく企業と鳥取県教育委員会が協定を結んでいます。

協定締結後は、次の①～④に掲げる項目のうち2つ以上に取り組んでいただけます。

① 学校へ行こう

参観日や学校行事等に参加しやすい職場環境づくりの取組

- 園や学校行事への参加促進
- 子育てや教育に関する機会への参加に対する休暇の優先取得
- 半日・時間単位の休暇制度等



② 仕事を語ろう、仕事を見せよう

子どもたちによる親の職場訪問や学校への出前授業、学校行事の支援となる取組

- 「子ども参観日」など、保護者の職場を子どもが参観・体験
- 生徒の職場体験・インターンシップの受入
- 学校・地域へ出かける「出前授業」や講話等



③ 子どもの体験活動を広げよう

親子や家族で参加する自然体験活動や地域貢献活動、職場行事の取組

- 子どもの自然体験活動やものづくり体験の実施
- 子どもが参加できる行事の実施等



④ 我が社の子育て支援を進めよう

①～③に準じた「子育て支援」に向けた取組

- 「育児の日」「家庭の日」や「ノーマルデー」の取組
- 企業内託児や学童保育の体制整備
- 家庭教育研修会の実施等



取組状況報告書より

- ・学校や保育園の行事や子どもさんの病気等での付き添いに、有給休暇を積極的に取得するようにしている。
従業員からは、休暇が取得しやすいと好評を博している。
- ・「下水道のしくみ」の学習の為に、施設見学を受け入れています。感謝の手紙をもらった。
- ・子供の参観日や行事に出席できるかの心配をすることなく安心して勤務できています。

祝
鳥取初受賞

令和3年度「家庭教育支援チーム」の活動の推進に係る文部科学大臣表彰

米子市家庭教育支援チーム とことこ・タムタム

私たち「米子市家庭教育支援チームとことこ・タムタム」は、米子市の子育て世代（特に、乳幼児）を対象とした事業の開催や子育てに関する情報を収集・交換することで、米子市の子どもたちの健やかな育ちを支援することを目的に活動しています。



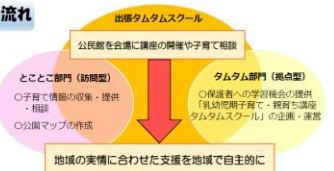
チーム・活動の体制

- ◇活動開始年月：2008年
- ◇活動拠点：鳥取県米子市：人口 146,852人（令和3年1月30日現在）
- ◇活動範囲：市内全域
- ◇チームのメンバー：12人
（元保育士、元幼稚園教諭、社会教育委員、子育て・家庭教育支援に係る行政機関職員、民生児童委員、図書館司書、家庭教育支援活動を行う市民）
- ◇連携機関等：保育所、幼稚園、公民館、子育て支援センター、児童文化センター、市役所関係各課 等

活動の対象

- ◇未就園児とその保護者
- ◇社会教育施設、福祉施設、公園など

活動の流れ



乳幼児子育て・親子講座 タムタムスクール

子育ての早い段階から人と人のつながりを構築し、子育ての悩み・不安の軽減を図ることを目的として、例年前期（5～7月）、後期（9～11月）で各5講座年間10講座程度、乳幼児親子の親が子育ての知識、技術及び心を学ぶことのできる講座を開催しています。



手をかけ、目をかけ、心をかけ
ことばを添えて

ワクワク親子deダンス（動画配信）
☆動画はこちらから
（米子市のホームページが開きます）

地域で子育て支援に携わる方や保健福祉部職員、現役保育士や小児科医といった、子育てを中心とした各関係機関等に講師を依頼することで、多方面からの子育て支援が可能となっています。座学がメインの講座では、タムタムスクールの主旨にご賛同いただいた地域の方に託児スタッフとして参加いただき、参加者が講座を受講する間お子さんの託児を1対1で行っています。

とことこチーム 公園マップの作成及び配布 地域の子育て支援拠点での支援活動

平成22年7月に、米子市家庭教育支援チーム「とことこ」カレンダー＆応援ブック（初版）を発行し、その後必要に応じて改訂版の発行を行っています。また、平成27年から2年間かけて米子市内の全公園調査を行い、公園マップを作成及び配布しました。米子市内、西部地区内子育て支援センター、子育てサークル（公民館）、米子市児童文化センター等を訪問し、利用者に対して子育てに関する情報収集や提供、相談や遊びの支援を行っています。



子育てサークル支援活動

公園マップ・リーフレット

参加者の声
・コロナ禍で人と関わる機会が減ったので子どもの良い刺激になりました。自分にとって子育ての良い息抜きになりました。
・気持ちに余裕のない子育てをしていたのでハッとしました。

<成果と課題>

これまで活動を続けてきたことで、子育て世代に「米子市家庭教育支援チームとことこ・タムタム」が認知され、タムタムスクールには毎年300～400名の受講者が申し込みられています。また、とことこチームとしての活動では、各支援機関の情報を収集・提供することで、共通の「子ども観」を見出し米子市の子どものための健やかな育ちの支援に寄与しています。今後は、これまでの活動を継続していくとともに、さらに子育て世代に寄り添った支援の展開を目指しています。

【事務局より】

早いもので今年度も残すところあと僅かとなりました。振り返ると今年度も随分と新型コロナウイルスに振り回された一年であり、対面の日々に一層想いが募る一年でした。

そのような中、対面・分散・ICTを織り交ぜた学びの場づくりやオンラインでのプログラム体験にチャレンジし、これらを参加者と共有できたことは、大きな大きな収穫だったと考えています。

皆様のご理解とご協力に心から感謝を申し上げます。

新年度も皆様とともに学びの場づくりにチャレンジしたいと考えています。引き続きよろしくお願いいたします。

